惑

皇女童女君者本是采女、天皇與一夜而脹、遂生女子、天皇疑不養、及女子行步、天皇御大殿、物部目大連侍焉、女子過庭、目大連顧謂群臣曰、○中略言誰女子、天皇曰、何故問耶、目大連對曰、臣觀女子行步、容儀似天皇、天皇曰、見此者咸言如卿所道、然朕與一宵而脹產女、殊常由是生疑、大連曰、然則一宵喚幾迴乎、天皇曰、七迴喚之、大連曰、此娘子以清身意奉與、一宵安輙生疑、嫌他有潔、臣聞易產腹者、以褌觸體、即便懷脹、況與終宵而妄生疑也、天皇命大連、以女子爲皇女、以母爲妃、

〔日本書紀二十敏達〕二年五月戊辰、高麗使人泊于越海之岸、破船溺死者衆、朝廷猜頻迷路、不饗放還、

〔日本書紀二十皇極四〕四年六月甲辰、中臣鎌子連知蘇我入鹿臣、爲人多疑、晝夜持劍、○下略

〔伊勢物語下〕昔つれなき人をいかでと思ひ渡りければ、哀とや思ひけん、さらばあす物ごしにてもといへりけるを、かぎりなくうれしく、又うたがはしかりければ、○下略

〔拾遺和歌集十五戀〕題しらず　よみ人しらず

うらみぬもうたがはしくぞおもほゆるたのむ心のなきかとおもへば

〔伊呂波字類抄末辭字〕迷マトフ　惑迷惑　悶　亂　逃　營亦作營　茫　惑　眩　疑已上同

〔運歩色葉集滿〕惑

〔古事記上〕大戸惑子神訓惑云麻刀比

〔倭訓栞前編末二十九〕まどふ　古事記に惑をよめり、日本紀に慟字、迷字、亂字などをよめり、まよふに同じ、梵書に見惑易斷如破石、思惑難斷如藕糸と見えたり、

〔倭名類聚抄三病〕失意　日本紀私記云、失意、萬古止比々路比

〔書言字考節用集九言辭〕失志コヽロマドヒ日本紀　失意同名順和

〔日本書紀七景行〕四十年十月癸丑、日本武尊發路之、○中略至膽吹山、山神化大蛇當道、○中略跨蛇猶行、時山神之興雲零氷、○氷原作水、據一本改峯霧谷塵、無復可行之路、乃捿遑不知其行跋涉、然凌霧强行、方僅得出、